

平成 29 年度市民対話集会会議録

日 時：平成 29 年 10 月 4 日（水） 16 時 00 分

場 所：福社会館 6 階ホール

団体名：おかざき観光ガイドの会

26 名

内 容：①開会

②市政ビデオの放映

③市長挨拶・説明

④団体代表要望・意見等

⑤その他要望等

市長― 皆さん、こんにちは。何かと気忙しい世相となっておりますけれども、本日はおかげで観光ガイドの会の皆さま方に、こうして市民対話集会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

皆さま方には、日頃より岡崎市政の発展、ことに私が進めております観光産業都市岡崎の創造に向けた事業につきまして、格別のご理解とご協力を賜っておるわけでありまして、深く感謝申し上げます。

また、皆さま方におかれましては、観光ガイドとして、観光の重要な要素であります観光おもてなしの一翼を担っていただいております、今日も先ほどまで観光ガイドをしておられた方もおみえになると聞いておりまして、皆さま方の日頃のご活躍に対しまして、心から敬意を表するものであります。

さて、この市民対話集会でありますけれども、私が市長に就任しまして以来、続けておるわけでありまして、この5年間で、これが44回目となります。

また、呼ばれればどこでも行きますということをいつも言っております、各種講演会がありますとか、政策の説明会など、さまざまな機会を捉えまして、ロータリークラブの会合、ライオンズクラブ、また、小学校、中学校、この間は大学生とも行いましたけれども、通算で300回以上行っております、私が目指しております市政につきまして、お話をさせていただいております。議会での審議に加えて、こうした形で市民の理解を深めながら行政を行っておるケースというのは、全国でもまれなことであると自負しております。これは、私が理想といたします、顔の見える民主主義の実践でありまして、それができる岡崎市というものを大変誇りに思っております。このところ、大都市におきましては、ときの風に左右されます大衆扇動型の政治が行われておるわけでありまして、結局のところ、こうしたものはロスが多く、実りの少ないものである、このように思っております。

今回は、貴重なお時間をいただきまして、市政の現状をご報告申し上げますとともに、皆さま方からのご意見も頂戴する機会であるというふうに思っております。最後に自由討論の場も設けてありますので、どうぞ最後までよろしく願い申し上げます。

さて、岡崎市は、昨年の市制100周年という節目のときを経まして、次の100年に向けた新たな歩みを、ただ今進めておるところであります。今年度も早いものでありまして、これで半年が過ぎたわけでありまして、7月30日より開催しております、岡崎城下家康公夏祭りにおきましては、額田のわん park や、イオンモール岡崎など、新たな会場を加えまして、公民連携の事業として、盛大に開催することができました。

また、この春にゾウ舎のリニューアルオープンを終えました東公園におきましては、今年の年末から来年にかけて、新しい恐竜の仲間がやってまいります。これは、今回も、ある資産家の方からのご寄付により実現したものでありまして、親子で、あるいはお孫さんとともに、ぜひ楽しんでいただきたいと思います。今回増えますのは、親のトリケラトプス、また、恐竜とともに写真の撮れるベンチ、そして、すべり台やトンネルとして遊んでいただ

けますスピノサウルスなどを予定しております。

最近、子どもさんの目が大変肥えておりまして、正確に作らないとかえって叱られてしまいますので、こうしたものは全て本物志向、最新の科学的なデータをもとに作らせていただくことになっております。皆さまにも、お子さんやお孫さんと一緒に、ぜひお運びいただきたいと思っております。

一方、近年、豪雨災害が頻発いたしまして、今年も九州豪雨をはじめ、各地で大きな被害が出ております。本市も、レッドサラマンダーの派遣などの被災地支援を行っているところでありますが、こうした集中豪雨というものは、いつ、どこで発生するか分からないものがあります。今年も9月に、市内の各地域で防災訓練を行わせていただきまして、多くの市民の皆さま方にご参加をいただき、防災意識を高めることができたと思っております。先週は、自主防災指導員の養成研修も実施いたしまして、引き続き、災害対策には万全を期してまいりたいと思っております。

次に、まちの魅力向上を図り、充実した市民サービスを提供し続けるためには、将来にわたって安定した財源を確保するということが必要であります。これからの財政におきましては、現在の本市の経済の柱であります、自動車産業を中心といたしましたものづくりに加えまして、もう一つの柱として、本市の特徴であります独自の自然と歴史的な文化資産を活かした観光産業の育成というものが大変重要であると考えております。そのための第一歩となりますのが、現在着々と進んでおります乙川リバーフロント地区の整備であります。

今回のリバーフロント計画というのは、行政によるハード整備だけを目的としたものではなく、公共が整備した空間を民間の皆さま方に活用していただきまして、そこで儲けを出していただくとともに、地域の価値を高めることで、その結果、行政には税金としてお金が入ってくると、こういった稼ぐシステムづくりを目指したものであります。

こうした主旨のもと、昨年に続きまして「おとがワ！ンダーランド」を開催しているところであります。これは、民間の事業者が、豊かな水辺空間で楽しむための仕掛けを施しまして、そこで新たなにぎわいを生み出すといった取り組みであります。来年の1月まで、朝市や水上アクティビティ、殿橋テラスなど、さまざまなメニューが展開されまして、毎週第4土曜日にはナイトマーケット、星空観望会といった大人好みの企画も実施されます。そして、11月25日には、今年で3回目を迎えます中部地方最大級の光の祭典であります「岡崎泰平の祈り」が行われますが、これは岡崎青年会議所と岡崎市が主催となりまして、民間企業のご協力をいただき、開催されるものであります。皆さま方にもぜひお運びいただきたいと思っております。

次に、ハード整備の状況であります。殿橋下流の河川敷の整備もほぼ終わりました、きれいに明るくなりました河川敷では、多くの方が散歩やショッピングなどを楽しんでいただいている他、若いカップルだけではなく、高齢の夫婦にも親しまれております。これは当初予想しなかったんですけども、石灰を混ぜて土壌改良をやりましたら、河川敷が夜間、明かりを受けて白っぽく光って、大変美しく見えるわけなんです。それを見られた方から大変

お褒めいただいております、これは想定してやったことではない副次的なものであるわけですが、いずれにいたしましても、乙川の河川空間が美しくなっているというのは、大変喜んでおるところであります。

また、殿橋と明代橋の間では、平成 31 年度の完成を目指しまして、乙川人道橋の工事が進んでおまして、現在、橋脚の 2 基と橋台の 1 基が完成いたしまして、目で見ても整備の状況が分かっているようになっております。この橋の本体はコンクリート製ですが、高欄や、床版などの表面には、額田産のヒノキを使いまして、木装風の橋として仕上げしております。当初、この事業に賛同いただけなかった方から、実際にできた石積み風の橋脚を見て、「やっと市長が何をやりたか分かってきたような気がする」と、こんな声もいただいております、言葉でいくら説明しましても、なかなか完全に理解いただくということは難しいわけですので、今後、一つひとつ形にしていくことで、視覚的により正しく理解していただけるように努めていきたいと思っております。なお、額田の木材を使うことによりまして、森林の整備の必要性ということも併せてアピールしてまいりたいと考えます。

また、人道橋と籠田公園を結ぶ中央緑道につきましては、平成 31 年度の完成を目指しまして、現在実施設計を詰めているところでもあります。電線類の地中化工事に今年度より着手してまいりたいと考えております。

また、岡崎の石工の技を示す、徳川四天王の石像ではありますが、これはもう完成しておりますけれども、将来的には、この中央緑道に一つひとつ丁寧に並べ、展示したいというふうを考えております。今回の整備では、さまざまな世代が、この場所で一緒にいられる、そういった公園の環境を作り出すとともに、安心して楽しく歩ける場所として、市民の皆さま方に提供してまいりたいと考えております。なお、一部の方から「中央緑道のヒマラヤスギを切るな」、こういうお話をいただいておりますけれども、こちらにつきましては、かねてより申し上げてまいりましたが、このヒマラヤスギというのは根が浅く、倒木の危険性が高いものでありまして、現に 9 月中旬の台風 18 号でも、暴風警報も出ていなかったわけでありまして、このように木が倒れたわけでありまして、今回、中心市街地における巨木の転倒にも関わらず、何も被害がなかったというのは本当に幸運であった、このように考えております。倒れたヒマラヤスギは、高さが 8 メートル以上あるにも関わらず、根は 40 センチほどの深さしかなかったわけでありまして、世の中には、人の安全よりも木を優先するかたがた、また、自分たちのイデオロギーを大切にしている人たちがいるというのは、大変残念なことでもありますけれども、数年前に他県においては、ヒマラヤスギが倒れたこと、また、枝が落ちたことによって車がつぶれたり、または死者が出た、こんなケースもあるわけでありまして、今後は、こうした危険な街路樹は積極的に除去してまいりたいと考えておりますので、ご安心ください。

そして、先ほども申し上げましたけれども、決してハード整備をすることが最終の目標ではなくて、これによって出来上がった空間を使って、いかにまちのにぎわいというものを取

り戻していくか、これが一番のポイントであると考えております。今後は、名鉄東岡崎駅を出発点としまして、人道橋、籠田公園、りぶら、岡崎城、乙川河川敷をめぐる動線に沿って楽しく歩いていただきまして、人をまちへ呼び込むための工夫でありますとか、人々の好奇心をそそるソフト事業の取り組みも進めてまいりたいと考えております。そして、その鍵となるのは、おいしい食べ物、面白いお土産、独自のサービスであると考えております。この点は特に民間のアイデアというものを期待しております。

この動線でありますけれども、岡崎城の総構え、すなわち総曲輪と重なりまして、その形状がQの字に見えますことから、アルファベットで「QRUWA（くるわ）」と名付けております。10月28日には、この地域で「めぐる、QRUWA」というイベントを開催する予定でありますので、皆さんもぜひご参加いただきたいと思っております。また、この秋より、健康づくりを支援する新たな取り組みといたしまして、「スマートウエルネスシティ首長研究会」に加入いたしました。これは、歩いて健康、食べて健康、そういったことをまちの中で実感できるように、にぎわいの他にも健康づくりの観点から、まちづくりを実践していくものであります。なお、市内の公園整備にも、この視点を取り入れていきたいというふうに考えております。そして、東岡崎駅の周辺整備につきましては、東岡崎駅からリバーフロント地区への安全な歩行者動線を確保するために、ペDESTリアンデッキを整備していきたいと考えております。中央部分には新たな広場が生まれることとなりますので、完成後は、ここでイベント会場や朝市、移動ショップのような要素を取り入れた利活用を考えていきたいと思っております。皆さんも、もしいいアイデアがございましたら、ぜひご提案いただきたいと思っております。

また、このペDESTリアンデッキにおきましては、これまでさまざまな機会でも申し上げてまいりましたように、松平元康から徳川家康と改名した25歳当時の若き家康公のブロンズ製の騎馬像を、川と緑を背景に配置することとしております。

家康公像を制作していただきます、日本のブロンズ像制作の第一人者であります神戸峰男先生にも、「日本一の騎馬像を造る」という意気込みで携わっていただいております。完成の暁には、単なる観光スポットとしてだけではなく、桶狭間の敗戦という人生の一大ピンチを独立へのチャンスとして天下を統一し、泰平の世を実現した家康公の一生から、困難に立ち向かい、人生を切り開いていく精神を、岡崎の子どもたちにぜひ学んでほしい、このように考えております。また、子どもたちが、入学試験や大きなスポーツの大会などに行くときに、この像の前で簡単な祈りを捧げていくような、そんな場所となれば、こんなふうにも思っております。

なお、先ほど映像でご覧いただきました、東岡崎駅北東街区のような新たな施設を含めまして、これらの施設は平成31年度当初の供用開始を予定しております。そして、同時にこの地域では、路上喫煙やポイ捨てなどを規制する新たな条例の検討も進めておりまして、これから岡崎の玄関口が快適で魅力的な駅前空間として大きく変わってまいりますので、大いにご期待いただきたいと思っております。

そして、乙川リバーフロント地区の整備に続く取り組みといたしまして、本市特有の歴史文化資産を活かした、歴史まちづくりというものを進めてまいります。市内には13の国指定の建造物がありまして、これは名古屋と並ぶものでありますけれども、意外にそのことは市民に知られておりません。市民の皆さま方に対する啓蒙を図るとともに、その一つひとつを線でつなぎまして、季節ごとのコースを考えて、こちらのほうから積極的に売り込んでいきたい、というふうに考えております。

その起点となりますのが岡崎公園でありまして、これからは家康公生誕の城にふさわしい史跡として再整備をしていく必要があると考えます。ことに、公園内などに戦国期から江戸期にかけて整備された堀や石垣は、皆さま方もご承知のとおり、大変歴史的な価値の高いものでありまして、岡崎城の最大の売り物であるというふうに考えております。

昨年の菅生川端石垣に引き続きまして、9月に開催いたしました月見櫓の発掘現場現地説明会におきましては、市の内外から多くの方にお越しいただいております。近年のお城ブームとともに、改めて歴史ある岡崎城跡の持つ魅力というものを認識したところであります。

そして、名古屋城と同様に、岡崎城の天守も建築から間もなく60年を迎えるわけでありまして、近い将来、城をどのような形で建て替えるのか、あるいは、延命措置をしていくのか、このことを私たちが決めなくてはならないときを迎えます。それはきっと10年から15年先のことになると思いますけれども、私といたしましては、そのときのために、今からできる限り岡崎城に関する資料をきちんとそろえておきたい、このように考えております。

現在、市民の皆さまには、自宅のお蔵や倉庫に岡崎城の設計図や見取り図、古い写真が残っていないかということ、もう一度ご確認いただきたい、このことを広報などを通じて何度もお願ひしているところであります。四国の高松城も同じ試みを行いましたところ、古い写真が、何とイギリスのケンブリッジ大学から発見されまして、お城の再建に弾みがついたと、こういうことであります。旧家の多い岡崎でありますので、同じように発見される可能性は高いというふうに思っております。

そして、これらの事業以外にも、岡崎の全体を見据えたまちづくりというものを着実に進めておるところであります。

まず、市の北部にあります旧県営グラウンド、仮称であります、龍北総合運動場につきましては、愛知県からの移管がようやく決まりまして、平成32年の供用開始に向けて、ただいま準備を進めております。各施設につきましては、陸上競技場を第3種公認に向けて全天候型の改修を行うとともに、サッカーやラグビーのグラウンドとしても活用できるように整備してまいります。また、老朽化の激しい50メートルプールにつきましては、県の管理下におきましてこれを撤去いたしまして、あとには8面のテニスコートが造られる予定となっております。なお、新たなプールにつきましては、多くのご要望もいただいておりますので、ただいま検討中であります。今後、さらに皆さま方にご満足いただける施設となりますよう整備をしてまいりますので、ぜひご期待いただきたいと思います。

また、南部地域におきましては、先の東岡崎駅と並ぶ、もう一つの岡崎市の玄関口であり

まず JR 岡崎駅前に、300 人規模のコンベンションホールと、オール・スイート仕様の宿泊施設をはじめといたしまして、レストラン、カフェを併設した結婚式場が、いよいよ今月完成いたします。1 月より本格的に営業開始ということになります。皆さんからの関心も大変高いものでありまして、コンベンションホールにつきましては、土日は既に 4 月まで予約でいっぱいだそうでありまして、施設の周りには噴水付きの公園や、岡崎駅とつなぐペDESTリアンデッキも整備されてまいります。

そして、この JR 岡崎駅の西側になりますけれども、市民待望の藤田学園の大学病院につきましては、24 時間 365 日の救急医療に対応できる病院として、22 の診療科と 400 床の病床を持つ総合病院が、平成 32 年の 4 月の開院を目指して整備が進められることが正式に決定しておりまして、来年、平成 30 年の春から建設工事が始まります。

さらに大学病院の隣接地には、藤田学園監修によります健康器具を備えた、ヘリコプターも発着できる駅南中央公園の整備でありますとか、各種商業施設の進出も決まっております、これからの南部は大きく変わってまいりますところでもあります。もちろん、そうした施設をより活かすためには、接続道路でありますとか、環境整備ということが必要になってくるわけでありまして、ただいま国や県としっかり打合せをしておるところであります。また、額田地域におきまして、平成 30 年 2 月の供用開始を目指しまして、額田支所をはじめ、周辺にあります額田図書館などの機能を集約した額田センターの整備を進めております。

さらに、市内の各地に 240 以上の公園があるわけでありまして、これからは高齢者のくつろぎと、市民の健康増進のための場所としての整備をしていきたいと考えておりまして、そこに地元額田の木材を使った施設ができないか、このように今、考えております。

そして、本宿駅の周辺におきましては、駅前の再開発事業に加えまして、民間事業者によるアウトレットモールの進出が計画されております。これは、新東名岡崎東インターチェンジや、国道 473 号バイパスの整備の他、国道 1 号、さらには名鉄本線からも近いという交通アクセスが良いことに加えまして、土岐や長島のアウトレットから 50 キロメートル離れている、こういった条件を検討の上選ばれたものでありまして、最近、本当にできるのかと心配されてる方がおみえになりますので、先般事業者を確認しましたところ、現在、鋭意準備を進めているということでありました。この事業が実現するならば、額田地域を含む岡崎の東部地域の活性化、および雇用に対しましても大きなインパクトがありますことから、本市としても積極的にこれに対応していきたいと考えております。

その他、矢作地区におきます矢作川右岸南北道路の整備をはじめといたしまして、サイクリングロード、公園整備などを行う他、JR 西岡崎駅におきましてエレベーターを設けるなどのバリアフリー化を進めてまいりたいと思っております。

そして、東名高速道路、阿知和地区につきましては、先の国の指定を受けて、スマートインターチェンジの開設に向けた準備会を設立したところでもあります。

一方、新東名高速道路のサービスエリア「NEOPASA 岡崎」へのスマートインターの開設につきましても、引き続き検討してまいりたいと考えております。

このように、私の2期目の市政も順調に進んでおりまして、皆さまにその成果を実際に感じていただくことができるようになってまいっております。こうした政策の究極の目的というのは、いつも申しておりますとおり、岡崎市民、ことに岡崎で生まれた子どもたちが、自分たちのふるさとに対して、これまで以上に大きな愛情と誇りが持てる、そんな夢のある新しい岡崎を作ることです。

ふるさとに対する愛情や誇りというのは、与えたり教えたりできるものではなくて、自らの心に自然に湧き上がってくる情念の高まりであると考えます。私はそうした心を自然に持つ岡崎人、日本人が育つまちづくりを目指しまして、これからも各政策をしっかりと遂行してまいりたいと思っております。

そして、次の100年を見据えまして、福祉や医療、防災や教育といった基本政策の充実はもちろんのこと、さらなる魅力あるまちづくりに向けまして、まい進してまいる覚悟であります。

今後とも引き続き、皆さま方のお力添えをお願い申し上げます、私の話を終了いたします。

ご静聴ありがとうございました。

司会— それではまず、おかざき観光ガイドの会、会長からごあいさついただきます。よろしく願いいたします。

会長— 先ほど市長より、私たちの会に対しまして、お礼、激励をいただきまして、感謝いたします。私たちガイドの会は、平成9年に発足しまして、昨年で20年経過しました。今、21年目の活動をしているわけですが、市の行政より、多くの支援をいただいています。例えば、岡崎公園の中にガイドの詰め所を準備していただいています。そのおかげで、われわれがガイド活動に専念できること、心より感謝し、お礼申し上げます。

先ほど、いろいろお話伺いました。岡崎市も観光事業に力を注いでいると、十分に分かりました。家康公生誕の地として、岡崎の観光資源は豊富にあります。いろいろなプランを考えていただいています。私たちが岡崎を訪れる観光客に対して最初に公園でお目にかかります。旅の印象は最初に会った人に左右されます。いつも笑顔をもっとして、明るく楽しく、元気よく、を心掛け、岡崎の顔として、最先端で日々頑張っております。今後ともガイドの会に対しまして、さらなるご支援をお願いいたしまして、あいさつとします。よろしく願いいたします。どうもありがとうございました。

司会— ありがとうございました。

それでは、事前に要望、提案を伺っておりますので、順次発表していただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

団体代表Aー 本日は、市長とおかざき観光ガイドの会の対話集会、こういう場を持っていただいて、先ほどの会長の言葉にもございましたように、大変感謝してるところでございます。このガイドの会、設立後、約20年になるんですけども、今までこうして市長あるいは関係部長さまと、面と向かって話をする機会なんてのは、全くなかったように、私、聞いております。やはり、これからこういう機会を通じまして、私ども観光ガイド、ならびに市の行政側のかたがたともコミュニケーションを密にして、ますます岡崎を発展させるべく、私ども、微力ながら頑張らせていただきたいと思います。

岡崎の観光ガイドは現在、岡崎歴史かたり人と、それから、今日ご出席いただいておりますおかざき観光ガイドと、二つのグループがございます。実際、この二つのグループがございまして、お客さまの側から見まして、市内外、あるいは最近では国内外ですけども、ガイド依頼をする場合に、お客さまが、岡崎歴史かたり人というのと、おかざき観光ガイドと、非常に迷うような、そういう場面もあるようでございます。現状を申し上げますと、何を基準に、どのように選択すればいいのか明確ではない、というような問題点がございます。例えば私も、全国、海外、プライベートでの旅行もしたりするんですけども、訪ねた地で「岡崎って皆さんお分かりですか」という質問を投げかけますとですね、「え、岡崎？ああ、京都の平安神宮のそばに岡崎ってあるね」というふうな、非常に悲しいような、先ほど市長のいろいろなお話の中で、行政のほうで進めていると伝わったんですけども、じゃあ市外、あるいは県外の方々は、岡崎市ってどういうふうに捉えてらっしゃるかというのを考えますと、非常に残念な気がしております。岡崎、ああ京都のね、と、こういう反応が戻らないように、家康公のふるさとでもある岡崎、ぜひ愛知県の岡崎を一度訪れてみようかと、こういうふうな気持ちになっていただくのが、私ども観光ガイドとしての使命だと思っております。それには、お客さまのほうから岡崎公園に来てもらって、という受け身の姿勢では駄目だと思っております。岡崎公園はもちろん、あるいは大樹寺とか伊賀八幡宮、滝山寺東照宮とか、非常に歴史的ゆかりのある場所が多いんですけども、私どものほうからも外へ出てですね、例えば、今年6月下旬には、国宝彦根城を訪ねました。そして、現地のガイドにもいろいろ説明をいただいてですね、私どものガイドとの比較をしながらレベルアップに努めているのが実情でございます。さらに、来月には一泊研修ということで、大岡越前守忠相、五代忠相が三河の出身ということで、この岡崎市と非常にゆかりのあるまちということで、茅ヶ崎、箱根方面を訪問してですね、私どものガイドのレベルアップを心掛けようとしてるところでございます。

せっかく茅ヶ崎へ行くんですから、岡崎市とゆかりのあるまちということで、茅ヶ崎市役所のホームページを拝見しておりました。それで、茅ヶ崎市のホームページの中に、茅ヶ崎市役所経済部産業振興課観光担当という部門がございまして、ここにメールで、私ども観光ガイドがゆかりのまちの茅ヶ崎を訪問するんだということを投げかけましたら、茅ヶ崎市の社会教育課の方から懇切丁寧なメールの回答がございまして、現地、茅ヶ崎のボランティアガイドの方が、岡崎の観光ガイドさんがお越しいただいたときに、ぜひ茅ヶ崎をご案内さ

せてもらいたいという大変ありがたいお話も受けております。実際、茅ヶ崎市役所と岡崎市役所、大変言いにくいんですけども、日頃音信があるんでしょうかと非常に心配になりました。先ほどの市長の話でも、市内の中だけで随分やってるって言うけど、もう少し外へのPRも必要ではないかと思っております。やはり、岡崎って一度訪れてみるに値する一見の価値があるなど、そしてさらにリピーターが増えるような、そういうまちづくりにしていくのが、本来の姿ではないかと思われま。

最近、インバウンドを含む国内外からのお客さまが岡崎公園にも来ております。おおむね2万人くらい観光客がみえまして、うち1割が外国人というような状況でございます。ちなみに私、今年の観光大使の女性のブログを見ておりました。皆さん、2017年の観光大使をしている方のお名前言える方いますか。手を挙げていただきたいと思うんです。市の方々は市長はじめご存じかと思えますけれども、私ども、これ反省点だと思うんです。観光大使の名前が分からない、非常に嘆かわしいので、私思うのは、今度2018年度の観光大使が決まりましたら、今年の観光大使は誰々さんと誰々さんと言えりような、そういうふう私どももやらせていただきたいと思っております。

私からの最後になりますけど、観光ガイドの事業運営につきましては、産官連携した体制が必要不可欠と考えます。地方創世の活性化に対しましても、市役所の観光事業部門、商工会議所、それと観光協会、こういうところが三位一体となった、いわゆるコラボレーションの体制を作つてですね、この体制によって観光事業のシナジー効果、いわゆる相乗効果ですね、こういう効果が大いに発揮されるものではないかと考ふる次第でございます。

今後とも、私どもも観光ガイドとしてですね、国内外の方々におもてなしの心、そういうものを整えて頑張つていきたいと思つたので、今後とも市長はじめ、あるいは経済振興部長さま、総合政策部長さまはじめ、関係の方々からの絶大なるご協力のほう、よろしくお願ひ申し上げたいと思つた。以上でございます。

司会— ありがとうございます。それでは回答のほう、市長、よろしくお願ひいたします。

市長— まずは、いつもボランティア活動で観光ガイドということで、大変重要なお役を引き受けていただいている皆さま方に、重ねて感謝申し上げたいと思つた。ことに岡崎公園というのは、市外からお見えになつたお客さんに対しまして幅広い案内をしていただくためにも、大変重要な所だと考えておつた。

冒頭、岡崎は知られていない、こういうお叱りをいただきましたけど、これは僕が市長になつたときも感じとります。例えば、徳川家康公の400年祭を合同でやつて静岡県に行つたときにですね、関東から来るとる某市長さんから「ところで岡崎って静岡のどこにあるんですか」つて言われたんです。われわれは愛知県内では岡崎は知られてると思つとるんですけども、箱根山から向こうの人に岡崎のことを聞いても、知らない人が大変多いと思つた。結局、自分たちの注目つてのが東京で止まっちゃつとるわけなんです。もう一つ反省点として

は、これは愛知県人全体にあることでありまして、われわれは自分たちが分かってるからいいと、別に他の人に分かってもらう必要はないという、そういう姿勢がどうも強いような気がします。それは、この地域が昔から豊かで、しかも戦後も、あんな敗戦があったにも関わらず、産業地域として一挙に発展してきちゃったわけでごさいます、自分たちに余裕があるから、観光だとかそんなものを使って一生懸命地域おこしなんかやrandも豊かな生活が享受できるもので、あまりよその人に理解をしていただくという努力をしてこなかった。この間、名古屋市長と会ったときにも同じこと言ったんですけども、名古屋が一番人気のないまちだと言われとるのは、まさにPR 不足以外の何ものでもない。実際に名古屋はそんな評価の低い所じゃないと思っております。世界に誇るものっていっぱいございますし、私、県会議員やっております、デザイン博以降、また先般の愛・地球博以降、名古屋のまちってというのは見違えるほど美しくなっておりますし、興味のある施設も大変多くあるわけですけども、名古屋も積極的に外にPR しようとしてこなかったわけです。その結果が今の状態であるというふうに反省しとる次第でございます。さて、現在観光に関わっておられるガイドの皆さま方は、先ほどもお話がございましたけども、観光協会がお世話させていただいております「おかざき観光ガイドの会」と、それから私が市長になりましてから作りました活性化本部を通じましてお願いしております「岡崎歴史かたり人」というの、この二つできてしまつとるわけでありまして、おかざき観光ガイドの会の皆さま方は、先ほどもお話がありましたとおり、平成9年の設立以来20年の歴史を誇りまして、毎日、岡崎公園内で飛び込みで来られたお客さんにも優しく、無料のボランティアでご案内をいただいております。また、平成27年の家康公顕彰400年祭を迎えたときに、主に市外から団体で来られた観光客の皆さま方をガイドする目的で組織されたのが、岡崎歴史かたり人でございまして、こちらは旅行業会のニーズに対応するための、完全予約制のガイドでありまして、皆さまとは立場が異なるものであるわけです。どちらも岡崎を誇りに思い、また愛する気持ちを持っておみえになる方がやっていただいとるわけでごさいます、目的は、岡崎におみえになった観光客へのおもてなしをするということでごさいます、そうした皆さま方に、施設を観る、そして、おいしいものを食べていただく、遊んでいただく、いいお土産を持って帰っていただくということが、一番重要ではないかと思つとるわけでごさいます。この点まだ、岡崎に行ったら何を食べよう、岡崎に行ったら何を買って帰ろうというのが、ちょっと弱い点がございます。これを今後、産官民の連携の下に、しっかりやっていかにやならんと思つとるわけです。

一つ、反省点でことで、今いろいろ話し合つとるんですけども、役所も一生懸命やってきとるんですけども、よそから役所に入ってきた人間として思うことは、本当に公務員の人っていうのは一生懸命仕事はやるけど商売っ気がない。ポスターやパンフレットはいいもの一生懸命作るんですよ。作るまでは一生懸命なんだけど、それを効果的に活用するという観点が欠けている。それから、この間も私のブログに書いたんですけども、いろんなグッズをいっぱい作るんですけども、グッズを作ることが目的化しちゃつとって、それを効果的に使

うという、もっと言うならば、作ったグッズをあげるんじゃなくて、売れるぐらいのグッズを作っていくという、こういう観点に大変欠けている。品物作って売っても、用意したものが売れたら「売れました」、それで終わっちゃうんです。売れたら次の品物をもう一回仕入れて、再度売っていくっていう、こういう姿勢が、やっぱり公務員の人には欠けてる。そんなことを反省いたしておりまして、これからしっかりとその点を注意してやっていきたいと考えております。

今後も皆さま方のお声を聞かせていただきまして、そうしたものを今後の岡崎の観光にしっかりと活かしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

司会ー よろしかったでしょうか。

では、引き続きまして、要望、提案をよろしくお願いいたします。

団体代表Bー まず、改めて平素のご支援に厚くお礼申し上げます。私からは、来園者、それからガイドの会の会員等の日常の声を抜粋しまして、箇条書き的に読み上げさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

一つ。岡崎城における、数少ない現存の石垣、空堀の保全について、ぜひご配慮をいただきたい、お願いいたします。それは、石垣の孕み調査とか、対策についてお願いしたいと思えますし、もう一つは、年末のライトアップの際、お堀に直接電球を取り付けられますけれども、そのときに作業員によるのり面の損傷がないかどうか、非常に危惧しておりますのでございます。

二つ。二の丸御殿、書院跡、清海堀、坂谷邸跡などの整備と、由緒書きの立て札の設置を、ぜひお願いしたいと思えます。

三つ目。通称「大手門」前に、「岡崎城」の石標の設置をお願いしたいと思えます。城巡りの来園者からの来城記念写真のため、要望が非常に多く寄せられております。

四つ目。能楽堂横、通称「にわ通り」のスロープが、雪の日はもとより、雨天の後も非常に滑りやすいので、そこの改善をお願いしたいと思えます。

五つ目。西バス駐車場にバイクの駐輪場が必要かと存じます。現在は、東駐車場や、りぶらへ誘導案内されてますけれども、ちょっと面倒なためにスルーしてしまうケースがあるのは、誠に残念と思っております。

六つ目。二の丸での催し、数々行われておりますけれども、お城の公園にふさわしいものにしていただきたいと考えております。例えば、音楽や音量がマッチしたもの。また、設営や撤去のため、メイン通路を長期間通行止めにし、資材が放置されて、観光客に対しては非常に不便であり、環境的にも好ましいとは思えない場合が見受けられます。

七つ目。トイレの改修について。これは非常に多くの方からのご意見でございますが、国内外から多くの来園者をお迎えする場にふさわしい仕様に、ご検討をお願いいたします。

八つ目。1号線沿い駐車場に、三つ葉葵ののぼり旗を林立させて、徳川といえば岡崎、三

つ葉葵といえば岡崎というイメージ付けを、ぜひ図っていただきたいなと考えております。

最後に、岡崎市観光基本計画アクションプランの中に、市民一人ひとりのおもてなし意識醸成が挙げられておりますが、ぜひ啓蒙活動を講じていただきますよう、お願いいたします。

以上、お願い事ばかり申し上げましたが、一方で、こんな素晴らしい空堀を見たことがない、紅葉の美しさに感動した、樹木の手入れが行き届いてとてもすてきだ、天守の版画体験や、城型の電話ボックスがとてもかわいいというような意見もいただいております。私どもも、観光岡崎の一助となれるよう、おもてなしを一段とスキルアップして、今後も頑張ったいと思います。どうぞよろしくをお願いいたします。ありがとうございました。

司会— ありがとうございます。それでは回答を、経済振興部長、よろしくをお願いいたします。

経済振興部長— ご指摘いただきましたけども、コミュニケーション不足で申し訳ないところでございます。たくさんのご意見、ご要望をいただきまして、時間の都合もありますので、総論的にまとめてお答えさせていただきます。

まず、岡崎公園の園内環境整備でございますけども、岡崎公園は、もちろん皆さんご存じのとおり、岡崎城跡の跡地に、公園として明治時代に設置されたものでございます。この後、城址公園としてふさわしい施設として、整備を進めてるところでございます。そのおかげもありまして、観光客も増え、岡崎城を擁する市民も誇りとする、本市最大の観光資源となっておりますと考えております。この素晴らしい史跡を未来に確実に保存することを目的に、岡崎城跡整備基本計画を平成 28 年度に策定しております。石垣の孕みの話がございましたけども、そうしたことは確実に調査をし、対策を講じていくことにしております。いにしへの姿へ復元するというを基本にしながら、市民や観光客が楽しめる、当公園設置目的であります、市民目線、観光客目線というものを大事にして、整備していきたいと思っております。

また、二の丸での催しの話がございましたけども、城址公園としての性格とともに、これまでも市内外の皆さんがさまざまなイベントを開催していただいております。例えば、京都の話になりますけども、清水寺もピアノコンサートをやるということで、歴史的文化資産を活用した観光誘客といいますか、そうしたことも行われると聞いております。もちろん、公園でございますので、迷惑行為、危険行為は禁止されておりますけども、無料の公園として、皆さん自由に出入りできる公園として、一般の利用を阻害できないようになつております。今後も岡崎公園の誘客の促進、そして新たな活用という面からも、イベント等、さまざまな利用が想定されるかと思っておりますけども、温かい目で見守っていただき、ご理解、ご協力をお願いしたいと思います。

また、トイレのバリアフリー化も含めまして、行き先の誘導サイン、史跡の説明看板、それを史跡復元を原則としながらも、観光施設として歴史的経緯が分かるようにしていく他、雨天の場合にも市民が安心して散策できるような、そんな観光できる施設に整備していき

たいと思っております。

また、公園の日々の管理は、指定管理者制度ということで、民間に任せております。そちらのほうも指導しながら、お客さま目線に対応していただけるようにしておりますので、これからも貴重な意見をいただきながら、お気づきの点があれば、どしどし申し入れていただきたいと思えます。

私からは以上でございます。

司会ー よろしかったでしょうか。

それでは、次の要望、提案をよろしく願います。

団体代表Cー 私は日々ガイドをやってる中で、岡崎公園にみえられた方からよく聞く声を発表させていただきますので、よろしくお願いします。

公共交通機関を利用してみえるお客さまに対してのご要望を提案いたします。岡崎公園に来園されたお客さまの中に、駅までの道順を聞かれる方が多々あります。お客さまに分かりやすいように、JR 岡崎駅、東岡崎駅、岡崎公園前駅、中岡崎駅、それぞれの駅に迷わずに行けるように、案内看板の設置をお願いいたします。

さらに、東岡崎駅、および岡崎公園前駅、中岡崎駅までの道路に、色分けによる表示をしていただく提案をいたしますので、ご検討よろしく願います。

司会ー ありがとうございます。それでは回答を、経済振興部長、よろしく願います。

経済振興部長ー 最寄りの駅から岡崎公園へ行くというのは結構分かりやすいんですけども、逆の面っていうのは、確かに分かりにくいかもしれません。案内板の設置でございますけども、市長の最初の説明にもありました乙川リバーフロント整備計画、それから「QRUWA」という事業もやっておりますけども、そうした主要動線をスムーズに移動できますように、公共サインを要所に設置するように進めているところであります。この公共サインのデザインを統一しまして、見つけやすく分かりやすい、また、シンボルにもなるようなサインを設置しまして、来訪者の方を自然と目的地に誘導するような配慮をしていきたいと思っております。

また、設置時期等につきましては、公共事業の進捗に合わせてということになりますので、徐々にその数を増やしていく予定としております。

また、道路の色分けの提案をいただきましたけども、病院等ですと確かに施設内、色分けで各棟へ行けるようなものもありますけども、道路というのは国道があったり県道があったり、市道があったりということで、そういう道路に勝手に誘導線を引くということが、なかなか難しいものとなっております。市道であれば、二十七曲りも今、色分けで分かるように

なっておりますけども、国道、県道となると、そう簡単にはいかないということでございます。その対策としましては、最寄りの駅までのルートを記載した、岡崎公園周辺地図を作製しまして、皆さまのご案内のときに配布できるように、準備したいと思っております。

また、観光ボランティアガイドの皆さまでございますが、最初、会長の話にもありましたように岡崎の顔となりますので、そうしたときに、また親切にご案内いただければと思います。今後ともよろしく願いいたします。

市長― 大変いいご指摘、ありがとうございます。僕が市長になって観光ということを出したときに、真っ先に指摘したのが、今言われた案内板なんです。案内板があるけども、形がそれぞれまちまちで、しかも案内が適切でないものがあったりします。それからまた、案内板があることがまちの景観を損ねてるような、ひどい案内板もあるわけでありまして。ああいうものをもっと統一して、効果的なもの、例えばロンドンの街角に行くと、本当におしゃれな案内板がありまして、案内板の横で女の子がもたれかかって写真を撮ってるような、案内板そのものが名所になるような案内板があるんですよ。だから、センスのいいものを取り入れて、しかも岡崎のまちの景観に合うようなものを作れないかということで、担当に指示を出してまして、もう具体的な絵が出てきておりますので、国の折衝に行くときにはそれを持って行ってやっとります。お役所仕事というのは本当に面倒くさくて、私たちが考えても、まず財政部局と話をして、予算を付けてもらえるかどうか下打合せをした上で議会にかけて、そこで承認してもらわないと政策として執行できないということで、時間がかかっておりますけども、そういう方向でやっとりますので、ぜひご理解いただきたいと思ます。

司会― それでは、次の要望、提案をよろしく願いいたします。

団体代表D― 今も案内板の設置の願いがあったわけですが、それに関連して JR の駅と名鉄の駅には観光案内所があります。ところが、岡崎のお城にみえる方は、観光ガイドの詰め所が観光案内所ではないかと言って、非常に多く来られるわけですよ。来られた人に「ここはガイドの詰め所ですよ」と言っても、「案内所じゃないのですか」ということをしつこく言われます。名古屋城に行きましても、大手門の横に案内所があります。そういうものがあると言うことは、お客さまも安心して来られるし、安心して中も散策できる、所要時間もどのくらいかかるのか、どういう施設があるのかということも、はっきり分かるかと思ます。観光案内所はガイドとは違うということを分かっていたかかないと、私たちガイドが駅まで案内をする、駅の近くまで案内をするようなことにもなりかねないんです。私たちガイドは、岡崎城、岡崎天守閣、家康館等のガイドをしているわけですので、JR の駅とか東岡崎の駅のような、しっかりした案内所じゃなくてもいいので、観光課のほうで案内所の設置を考えていただきたいと思ます。そうすることによって、私たちも、もっとガイドのほうにしっかり身が入れられるんじゃないかと思ます。

司会－ ありがとうございます。それでは回答を、経済振興部長、よろしく願いいたします。

経済振興部長－ ご指摘のとおり、岡崎公園に観光案内所が欲しいと思っております。ただ、公園内ということで、スペースの問題、これが一番でございます。なかなか建てられないというのがあります。ですから、その分、観光協会の観光売店ですとか、家康館の職員、武将隊のほうにも、そうした案内をするように頼んどりますけども、総合的な観光案内所を持つ必要性は十分認識しております。それが公園内になるのか、あるいはその周辺になるのか、これは財源の問題もございます。そうしたことを検討しながら、今後も運営方法、設置場所等について、検討してまいりますので、ご理解よろしく願いいたします。

市長－ もうちょっとかみ砕いて言いますと、公園法という法律がございまして、公園の中に建てられる建物の建ぺい率が決まっております。今現在、残念ながら岡崎公園の中には、建ぺい率いっぱい建物が建っちゃってますので、新しい施設を作るといことが大変困難な状況になっております。ですから、今、岡崎市としましては、隣接する土地で売りが出たときは、ちょっと高くても買って来て、それを財政部局にもお願いしておるところなんですけども、まだそこまで手が伸びとりません。観光案内としましては、まずその拠点となります東岡崎駅、それから JR 岡崎駅、ここに一応案内所を作って、そして今、人道橋を造りまして、おみえになった方を誘導する動線を考えておるんですけど、そのしょっぱな、人道橋を渡った所の豊川信用金庫の跡地を、今、一つの拠点として使い、そこに総合的な案内所を作りたいと考えております。それで十分とは思っておりませんが、当初からそういうふうを考えてこの土地を確保しております。今すぐお城の近くにとということに、なかなか応えられないのが残念でございますけども、当然今日のご指摘を受けまして、近い将来できるように努力いたしますので、ご勘弁いただきたいと思っております。

司会－ それでは、次の要望、提案をよろしく願いいたします。

団体代表E－ 乙川リバーフロント地区の整備計画で、城址公園の整備計画などいろいろと行われて実行に移されていますので、うれしく思っております。今、豊川信用金庫の所も今日から発掘が始まるようで、また見たいと思っておりますが、そこに案内所ができるということだったら、すごくうれしく思っております。

岡崎おでかけナビもリニューアルされて、大変たくさんの方がアクセスしていただいて、岡崎への関心の高さを物語るものだと思っております。先ほどから何度もありますが、人道橋をそういうふうにつ造られると、東岡崎から人道橋まではほんのわずかな距離ですし、私たちは分かっておりますが、知らない人からすると、駅から出られて、そこまで到達するのが

結構難しいもんですから、そういうのの案内板とか、それから上がっていただいて籠田公園まで来ますと、二十七曲りに接しますが、その二十七曲りがどっち行ってどう行ったらいいのかって、やっぱりあの辺も分かりにくいので、そういうのの案内板なども作っていただけたらと思っております。先ほどのものと重複しておりますが、よろしく願いいたします。

司会— ありがとうございます。それでは回答を、市長、よろしく願いいたします。

市長— ありがとうございます。本当に、ごもっともなご指摘でございまして、私たちも何度もそういうことを言われており、今一生懸命準備をしておりますので、ご理解いただきたいと思っております。

人道橋のたもとの案内所というのは総合案内所でございます、お土産物から観光案内、ルートから、全てを皆さま方にご理解いただけるようなものを造りたいと思っております。東岡崎駅前にも小規模でありますけども、今既に小さな事務所が出店しております、そこをもうちょっと、しっかりと活用しないかなと思っております。先ほど言いましたように、JR岡崎駅のほうも今作っておりますので、そうしたものを連携を取ってしっかりと活用していきたいというふうに思っております次第であります。

そして、先ほども申し上げましたとおり、人道橋というのは橋を造ることが目的ではなくて、それを起点といたしまして、岡崎の歴史を感じさせる仕掛けというものをこれからも造っていきたく思っております。人道橋、籠田公園、岡崎公園、そういった公共施設をつなぐQRUWAの動線を軸に、市民の皆さまや専門家の皆さまとともに、中央緑道の整備等も併せて取り組んでおるわけでありまして。そして、二十七曲りというのも、大変思い入れの深い方もございまして、よく言われるわけですけど、今もう、まちの形態が変わっちゃって分りにくいわけです。そこで僕が提案いたしますのは、長野市に行きましたら、まちの中に人間の腰くらいまでの高さの小さな石の灯籠がありまして、それがまちの隅々に配置してあって、まちの名前が書いてあったり、矢印が書いてあったりして、見てかわいらしいし、観光案内、ルート案内に役立ってまして、夜はライトがつくんですね。岡崎は石のまちですので、そんなようなものを真似してできないだろうか。そんなことも担当には提案しておるところでございます。

それから、皆さま方に今日パンフレットをお配りいたしましたけども、この10月の28日に、先ほどもお話しいたしましたとおり、りぶらの前から籠田公園、連尺通り、中央緑道、乙川におきまして、「めぐる、QRUWA」と題する社会的実験を行いますので、ぜひこれにご参加いただけたらと思っております。よそにいくら宣伝しても、あまり知られとらんじやないかというお叱りをさっき受けちゃいましたけども、このリバーフロント計画というのは、専門家の間では今大変高い評価を受けとりまして、数多くの大学の先生が岡崎におみえになりまして、本当にありがたいお言葉をいただいております。私も国交省に行くときに必ず枕詞として、「国のモデル事業となるような仕事をしますので、予算のほうをよろしく願い

します」と毎回言ってくるんですけども、実際、国交省のポスターやパンフレットに岡崎の写が使われとりますし、この間、愛知県選出の国会議員さんに要望活動やったんですけども、そのときに県連会長から、「今、岡崎方式の乙川リバーフロント計画というのは、全国で大変注目されていて、同じような仕組みでまちおこしをやろうとする所があっちもこっちも出てきている。今までは岡崎だけだったので、これからは今までどおり予算が出るとは限らないけれども、一生懸命われわれも努力するから」ってお言葉をいただきまして、しかも同じ愛知県の中から、海部郡がリバーフロント計画をやろうということで、今動き出しとるそうでございます。それくらい専門家からは評価されておるものでございますので、ぜひご期待いただきたいと思います。

司会— よろしかったでしょうか。事前にいただいている要望、提案は以上でございます。お時間過ぎておりますが、その他にご意見等ございます方がいらっしゃいましたら、挙手にてお願いしたいと思います。

団体代表F— 一つだけ、疑問なことをお伺いするんですけども、明神橋には橋の名前があります。殿橋にも橋の名前があります。今度できるリバーフロントの所にも新しい人道橋ができる。お気付きの方があるかどうか分かりませんが、明代橋には名板がないんですが、あれはどういうことですか。

経済振興部長— 指摘されて気付いた面もございます。橋自体が県道橋ということもございまして、そこまでしっかり管理が行き届いてない部分があったかもしれませんが、諸方面に確認して、しかるべき対応をとりたいと思います。

市長— それから人道橋でございますけども、あくまで仮の名前でございまして、橋が完成した暁には、市民の皆さま方に公募したり、こちらから提案したものに投票してもらったりして、名前を正式に決めたいと思っておりますので、その節はまたよろしく申し上げます。

司会— ありがとうございます。その他にご意見、ございますでしょうか。

団体代表G— 先ほどですね、公園の中に総合観光案内所を造ってくださいという話、出させていただきましたけれども、現実には今私たち、詰め所において、決して冷たい対応は一切取っていません。懇切丁寧に、きちっとやっていますので、今すぐできなくても何ら困っていることはないんです。ただ、私たちが常時必ずあそこにいるわけではないので、どうしてもガイド優先で外に出てしまいます。そうしたときにお客さまに迷惑かけるってことは多々あるかと思いますが、今までどおり、大樹寺どっち、東岡崎どっちって来たお客さまには、通常の観光案内所と同等、もしくは、歴史に詳しいもんですから、それ以上の案内をし

ているかと思いますので、ちょっと補足させていただきます。

司会— ありがとうございます。その他、ございませんでしょうか。

では最後に、改めまして、市長よりごあいさつを申し上げます。

市長— 今日は皆さま、お忙しい中、こうして日中お集まりいただきまして、ありがとうございます。ありがとうございました。

紛れもなく、岡崎の観光というのは、皆さま方の力によって担われている、このことを、今日もお話をお聞きしまして、感じた次第でございます。

私たちもこれから努力いたしますけれども、また皆さま方のお力添えを、重ねてお願い申し上げます。

今日いただきましたことは、私たちも考えておくことでもありますし、すぐできること、まだしばらく時間がかかること、あるわけありますけれども、一応、市の責任ある立場の者がそろってお聞きいたしましたので、必ずいつか実現したいと思っておりますので、どうか、そういうふうにご理解いただきたいと思っております。

今日はどうもありがとうございました。これからもまた、よろしく願いいたします。